

社会的養護関係施設第三者評価結果報告書

(児童養護施設・三ヶ山学園)

2017年1月27日

特定非営利活動法人

ニッポン・アクティブライフ・クラブ

ナルク福祉調査センター

⑦総評

[特に評価の高い点]

・一人ひとりの子どもの思いを受け止め安心、安全を感じることができる支援が行われている。外部内部の研修に力を入れ、職員の意識とスキルの向上を計り、施設長はじめ主任級職員がリーダーシップを発揮し施設全体の取り組みとなっている。子どもと職員が個別にふれあえる機会を多く持ち特に表出が苦手な子には「なんでも相談箱」が用意され、一つひとつの意見に回答をし、できないことにはわかりやすく説明し納得できるように努力している。子どもは自主性を重視した支援姿勢により大人の見守りの中で安心感のある生活を営まれている。

・小規模化への先進的な取り組み

平成26年7月に大阪府から示された方針に基づき、当三ヶ山学園では15か年中長期計画を作成したが地域小規模児童養護施設2か所は平成19年と21年に開所した。施設内小規模グループケア4か所予定のうち3か所目までが稼働し期待された成果をあげている。さらに分園型グループケア2か所も現在建設中で2017年春オープン予定である。全体の居室数は4人室より2人室、個室の数が多く、家庭的な環境下での支援の推進に力を入れているのがわかる。今後の中長期計画には余剰スペースの活用やファミリーホーム等も含んだ組織図が描かれており、施設長のリーダーシップのもとに積極的な取り組みがみられる。

・向上する意欲が高く、働きやすい職場環境が推進されている。

出産、育児、介護休業制度、評価制度を組み込んだ賞与、昇給規定や中途採用時の前歴加算などプラス思考の給与規定等、職員の処遇改善は前回の第三者評価時より大幅に改善している。他の項目でも、職員全員で検討できていなかったことを改善し前回b判定であったが今回はa判定になっている。

[改善が期待される点]

・中堅職員の育成

福祉業界の人材確保が難しく定着率が低い、当学園もいろいろな取り組みを実施している。難しい情勢であるが、新任職員が定着し、中堅として施設を支える人材に育つことを期待する。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

・第三者評価受審は今回が2回目ということもあり、前回より事前準備をして受審できたかと思いません。

今回の評価結果を受け、在園する児童への支援だけに注力するのではなく、地域や保護者との連携、及び退園する児童へのアフターケアにも今以上に目を向けてまいります。

またこの取り組みが在園する児童への支援の質の向上につながるものであるということを、管理職が自覚すると共に職員への周知を図った参りたいと思います。

⑥第三者評価結果（別紙）